

「批判力」とは、これからの社会を生きるために必要な中核的能力として、クリティカル・シンキングを含む思考力を表しています。(OECD Education 2030(ラーニング・コンパス 2030))

① メタ認知 (批判力との関連した能力)

メタ認知は、自分の考えや判断を一步引いて見つめ直す力であり、批判力の中核をなす能力です。自分の意見を絶対視せず、「なぜそう考えたのか」「他の見方はないか」と問い直すことで、根拠に基づいた判断が可能になります。この力を育てることで、感情的な否定ではなく、よりよい考えを生み出す建設的な批判力の育成をねらいます。

② 具体的な関連事項

- 自分の判断や意見の理由を振り返ることで、考えの妥当性を確かめることができる。
- 思い込みや先入観に気づくことで、一つの見方に偏らない判断が可能になる。
- 考えた過程を言葉にすることで、根拠を明確にし、意見を整理できる。

① セルフコントロール (批判力との関連)

セルフコントロールは、感情や衝動を適切に調整し、冷静に考えるための基盤となる力です。批判力は感情的な反発や否定では成立せず、一度立ち止まり、事実や根拠を吟味する姿勢が不可欠です。セルフコントロールを育てることで、感情と意見を切り分けて考え、他者の考えを尊重しながら、より妥当で建設的な判断を行う批判力の育成をねらいます。

② 具体的な関連事項

- 反論したい衝動を抑えることで、相手の意見を最後まで冷静に聞くことができる。
- 不快な感情に気づきつつ整理することで、感情に流されない判断が可能になる。
- 感情と事実を切り分けて考えることで、根拠に基づいた意見形成ができる。

1. 批判力の怖さ(3つの視点)

① 自分自身に対する危険性

批判することが習慣化すると、自分の考えを絶対視しやすくなり、内省や学びが止まる危険があります。また、他者の誤りばかりに目が向き、自分の未熟さや思い込みに気づけなくなることで、成長の機会を失うことがあります。

② 相手に対する危険性

批判が相手の人格や努力に向かうと、相手を否定・攻撃する行為になりやすく、心理的安全性を大きく損ないます。その結果、相手は意見を述べることを避け、対話や挑戦を諦めてしまう恐れがあります。

③ 周り(集団)に対する危険性

批判が強く表出する場では、発言力のある人の意見が支配的になり、集団全体が萎縮します。失敗や異なる考えを出しにくい雰囲気が生まれ、多様な視点や協働的な学びが成立しなくなる危険があります。

2. 批判力が攻撃や拒否に変わらないために

批判力は相手を否定する力ではなく、よりよい考えを生み出すための思考の力です。指導すべき教員も含めた大人が心得ておくことは、感情と意見を切り分け、根拠を問い、対話を通して考えを深める姿勢がとても重要です。児童生徒のロールモデルとなりましょう。